

みる つくる がた

千葉県立美術館報

VOL. 13 NO. 4

(通巻51号)

昭和62年3月23日発行

編集・発行人 平野 馨

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)



小山周次「銚子犬吠埼」 紙・水彩 1961年

小山周次は、明治18年、長野県に生まれた。彼は早くに両親を亡くした後、私立小諸義塾に入学。三宅克己を師として水彩画家への道を歩み始め、後、丸山晚霞の内弟子となり義塾に通学した。

この小諸義塾では島崎藤村などもおり、文学者や水彩画家達の交流が盛んに行われた。彼の作品は、塾での文学者や画家達との恵まれた人間関係と信州の自然に育まれたと言える。彼の愛情に富んだ自然に対する解釈と接し方は、その作品の中で穏やかな表現となっており、見る人を安らぎと郷愁の思いに誘う。

彼は、塾卒業後に上京し、太平洋画会研究所、水彩画講習所に学んだ。大正2年には日本水彩画会の創立に参加。また中西利雄等の起した水彩画研究会の「蒼元会」を援助したり、日本水彩画会の常務などをつとめるなど、水彩画の発展に尽力した。更に、成城学園高校で20年近く美術を教えたり、国産の用紙・絵具の改善に努めたり、恩師達の偉業を記念誌として編集するなど、昭和42年に亡くなるまで多方面から水彩画の普及に大きな貢献をした。

みる (展覧会)

新収蔵作品紹介

昭和61年度に収蔵された作品は次の通りです。
(昭和62年3月20日現在)

購入

日本画

石井林響作

「春秋」 (絹本墨・着彩)

「嵐」 (絹本墨・着彩)

「葦と白鳥」 (絹本墨・着彩)

「達磨」 (絹本墨・着彩)

「竹花鳥」 (絹本墨・着彩)

「櫻」 (絹本墨・着彩)

「冬景色」 (絹本墨・着彩)

「夏山」 (絹本墨・着彩)

「釣人」 (絹本墨・着彩)

「白衣の老人」 (絹本墨・着彩)

「老人と船」 (絹本墨・着彩)

「寒山拾得」 (絹本墨・着彩)

「崖に向かう老人」 (絹本墨・着彩)

「葦に鳥」 (絹本墨・着彩)

「弁財天」 (紙本墨・着彩)

「松に鶴」 (紙本墨・着彩)

「蘇武」 (紙本墨・着彩)

「山水」 (絹本墨・着彩)

「舟遊図」 (紙本墨・着彩)

「唐獅子」 (紙本墨・着彩)

「山水図」 (紙本墨・着彩)

関主税作

「晨」 (紙本 着彩 昭59)

渡辺阿以湖作

「牡丹」 (紙本 着彩 昭61)

稲木皓人作

「更衣」 (紙本 着彩 昭48)

斎藤 惇作

「五台山大白塔」 (紙本 着彩 昭61)

大田歳作

「北海」 (紙本 着彩 昭54)

五十嵐幹作

「華」 (紙本 着彩 昭51)

洋画

浅井忠作

「農家」 (紙 水彩 明35)

丸山晚霞作

「長野水内風景」 (紙 水彩 明31)

石川欽一郎作

「水辺」 (紙 水彩 明治末)

小山周次作

「ばら」 (紙 水彩 昭13)

「甲斐牧丘」 (紙 水彩 昭21)

「花菖蒲」 (紙 水彩 昭33)

「銚子犬吠埼」 (紙 水彩 昭36)

「林檎と柿」 (紙 水彩 昭36)

「三宝柑」 (紙 水彩 昭36)

赤城泰舒作

「赤屋根の村」 (紙 水彩 昭和初)

「山湖」 (紙 水彩 大3)

水野以文作

「草花」 (紙 水彩 大3)

後藤工志作

「ダリア」 (紙 水彩 大2)

古賀春江作

「風景」 (紙 水彩)

富田通雄作

「静かなる日」 (紙 水彩 昭12)

「外房鶴原」 (紙 水彩 昭12)

寺田政明作

「船具」 (麻 油彩 昭45)

「大吠灯台の見える外川港」 (麻 油彩 昭60)

篠崎輝夫作

「敦煌」 (麻 油彩 昭61)

五十嵐光昭作

「涅槃の前で」 (麻 水彩 昭58)

中村亮一郎作

「窠」 (麻 油彩 昭62)

羽生智樹作

「動く気配の鳥」 (麻 油彩 昭56)

彫刻

安西順一作

「昆沙門天像」 (ブロンズ 昭46)

伊藤礼太郎作

「夜叉神解脱」 (木 昭57)

吉野毅作

「わか女」 (ブロンズ 昭61)

鈴木啓子作

「FEELING-LOVE」 (白いポリエー)

「強化プラスチック」 昭48)

工芸

津田信夫作

「花瓶」 (鍍金 大7)

帖佐美行作

「香実と想鳥(集いの為の酒器セット)」 (彫金 昭59)

大須賀喬作

「蝶文黒銅香炉」 (彫金 昭58)

「昆蟲文飾皿」 (彫金 昭61)

秋山逸生作

「蝶貝象嵌箱」 (象嵌 昭41)

藤田喬平作

「飾宮・しだれ櫻」 (ガラス 昭60)

三橋英作

「象嵌花器(展)」 (陶芸 昭59)

企画展

「第10回千葉県移動美術館」

好評裡に終了

第10回展となった今年度の移動美術館は、9月26日から10月14日まで丸山町中央公民館で、10月17日から30日まで浦安市中央公民館で開催した。今回は、昨年惜しまれつつ他界した洋画家梅原龍三郎、陶芸家山本正年の作品をはじめ、天折の彫刻家、山崎英五の作品や、現在活躍中の作家では、日本画の松尾敏男、洋画の日野耕之祐、彫刻の山本正道、版画の浜口陽三、工芸の会田富康、書の大石隆子の作品など、41作家、41点の展示を行った。

特に地元や近地の方々から好評を博し、アンケートには、当地で定期的な開催を望むとの声も多くうかがわれた。

また本展は、両会場の積極的な宣伝などにより、児童・生徒やお年寄りの団体鑑賞も多く見られた。



横山光ノ介作

「戦碑」 (陶芸 昭51)

中台邱園作

「盧綸詩」 (紙 墨 昭61)

研究資料

「石井林響印譜集」

寄 贈

次の資料を寄贈いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

日本画

杉本郁太郎氏より

木島桜谷作

「雨中山水之図」 (絹本 墨)

大田歳氏より

大田歳作

「有明」 (紙本 着色 昭43)

洋画

富取町子氏より

若林鐘五郎作

「裸婦」

工芸

秋山逸生氏より

「菱華文象嵌長手箱」

「蕾芝山象嵌額」 (象嵌 昭21)

「木画箱」 (象嵌 昭41)

「カンナ芝山象嵌襟飾」 (象嵌 昭44)

「対縞黒檀筆筒」 (象嵌 昭53)

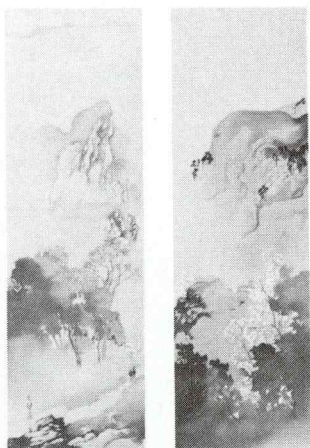
研究資料

富取町子氏より

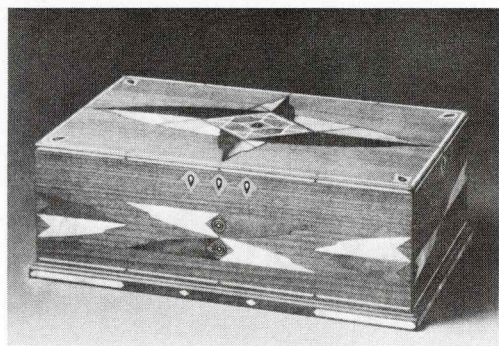
「富取風堂スケッチ類」



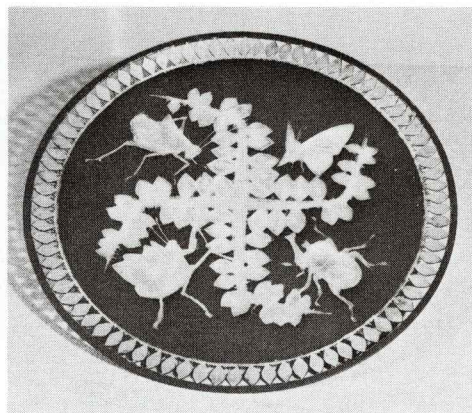
浅井 忠 「農家」



石井林響 「春秋」



秋山逸生 「蝶貝象嵌箱」



大須賀喬 「昆虫文飾皿」

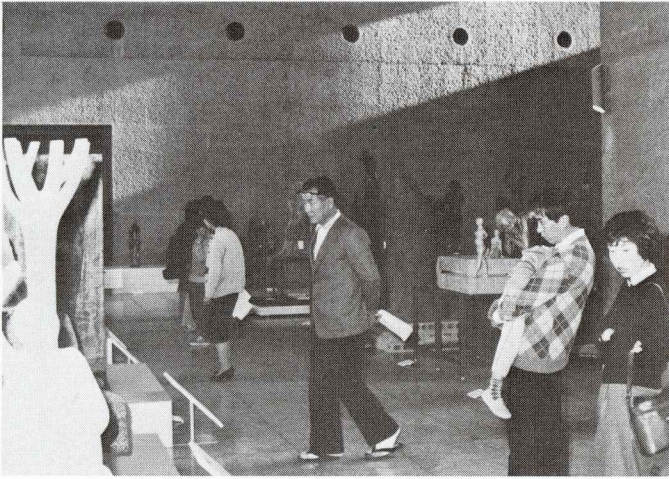
企画展
「富取風堂展」

フアンを魅了

9月13日から10月12日まで
房総の美術家シリーズの第16
回展として、大正・昭和の日
本画壇に大きな足跡を残した
富取風堂に焦点をあて開催し
た。院展出品作品をはじめ代
表的作品の他、模写・スケッ
チ類も併せて展覧し、その画
業を回顧した。豊かな日本画
の技法、卓抜した構図力、独
自の色彩表現等、その画風は
多くの鑑賞者を魅了した。ま
た、10月5日には「富取風堂
の人と芸術」と題し「美術を
語る会」を開催した。日本画
家の五十嵐幹氏、斎藤惇氏を
話題提供者として、多数の参
加者の中で、映画放映、さら
には活発な意見が交わされ、
富取風堂について理解を深め
る意義ある会となった。



第2回現代日本具象彫刻展作品公募始まる



第1回現代日本具象彫刻展 (60.2.2~2.24)

千葉市に建設中の「青葉の森公園」は、3月には野球場がオープンし、その他の施設も順次整備される予定ですが、カルチャーズゾーンには「県立中央博物館」が建設され「彫刻の広場」なども計画されています。

この「彫刻の広場」に設置する彫刻を選定するため、昭和60年2月に第1回現代日本具象彫刻展が開催され、大賞作6点のうち、4点が同公園に設置されることとなりました。引き続き、優秀作品をひろく全国に公募するため、第二回展を開きます。ふって、御出品ください。

第二回

現代日本具象彫刻展 作品募集要項

主催

千葉県・千葉県教育委員会

運営

現代日本具象彫刻展実行委員会

開催時期

昭和62年8月7日(金)~9月6日(日) (27日間)

会場

千葉県立美術館

テーマ

「21世紀への飛躍」

出品規定

1、応募資格

出身県、経歴、年齢を問いません。

2、応募作品

(1) 具象的な野外彫刻のためのエスキースで、昭和59年12月以降の制作による未発表の作品。

(2) 素材は問いません。ただし、特殊装置等を用いたものなど展示不可能なものは受付られません。

(3) 規格は、1m立方以内。重さ2t以内。

(4) 出品点数は1人1点。

3、搬入

(1) 昭和62年7月4日(土)~7

月5日(日)までの毎日10時から16時までの間に千葉県立美術館まで搬入してください。(運送業者による搬入も7月5日(日)必着、時間厳守)

中略

5、審査員

小川正隆、嘉門安雄、弦田平八郎、富山秀男、中村傳三郎、本間正義、三木多聞(敬称略、五十音順)

6、賞及び入選

大賞6点以内(副賞各70万円)

入選 点数未定

◎大賞作の中から、エスキースに基づき、高さ2・5m程度の金属又は石等で制作を依頼し、青葉の森公園に設置する予定です。

7、審査結果

昭和62年7月13日(月)10時に千葉県立美術館に掲示します。応募者にはハガキで通知します。

8、作品展示

入賞作品及び入選作品を展示します。

9、搬出

選外作品||昭和62年7月13日(月)~7月22日(水)10時~16時。入選作品||昭和62年9

月12日(土)~9月19日(土)10時~16時。搬出期間及び搬出時間は厳守してください。期間内に搬出のない場合は、当方で処分します。

◎問い合わせ先

現代日本具象彫刻展実行委員会事務局

〒260千葉市中央港一〇一
千葉県立美術館学芸課気付
(電話)〇四七二(四二二)
八三二二

【青葉の森公園】

千葉市の農林水産省畜産試験場跡地につくられるもので、面積約53ヘクタール、下総台地の面影を残す典型的な地形で、樹林帯も豊かで、ムクドリ、キジなどが生息する、都市部に残された極めて貴重な自然です。

この公園は市民のレクリエーションの場、文化活動の拠点、防災の場として利用される予定です。スポーツゾーン、レクリエーションゾーン、カルチャーゾーン、ネイチャーゾーンなどに区分され各種施設を整備して、昭和70年度の完成を目指していますが、今年3月、野球場がオープンします。

かたる・つくる

(美術を語る会・実技講座等)

美術を語る会

本館では美術普及の一環として美術一般に関する問題をテーマとして「美術を語る会」を開催し、「美の広場」の充実を努めています。
本年度は次のように実施しました。

第一回 7月13日(日)
テーマ 「私の好きな巨匠たち」

話題提供者 洋画家・松沢茂雄氏

第二回 9月14日(日)
テーマ 「浜口陽三の表現方法」

話題提供者 版画家・深沢幸雄氏

第三回 10月5日(日)
テーマ 「富取風堂の人と

情報資料室から

昭和61年度 受入図書

今年度は、版画、彫刻、工芸関係の図書を中心に購入しました。主なものは次の通りです。

〈版画〉

棟方志功全集 全12巻
年鑑日本の現代版画 '85
リトグラフ
浜口陽三全版画

芸術

話題提供者 日本画家・五十嵐幹氏、同・斎藤惇氏

第四回 11月23日(日)
テーマ 「高校生年代における造形表現」

話題提供者 千葉大教授・太田洋三氏

第五回 2月8日(日)
テーマ 「陶芸の美とその特質」

話題提供者 陶芸家・三橋英作氏

年度内5回の本会に話題提供者として御尽力いただいた各氏に厚く御礼すると共に参加者の御協力を紙上を借り感謝いたします。

美術館研究員会議

美術館研究員会議は美術館の専門的・技術的な事項に関する研究を行うために10名の委員が置かれています。
2月6日に第二回研究員会議が開かれ、熱心な協議のもと、昨年度から継続され、研究が進められてきた成果のまとめとして、浅井忠が書き記した日清戦争の従軍記「従征画稿」の翻刻及び解説・凡例、同画稿のスケッチ類を入れて、発刊することになりました。

規格 A5版
内容 32ページ
部数 500部
昭和62年3月7日、研究員佐藤修氏は死去されました。御冥福をお祈りします。

は次の通りです。

〈彫刻〉
札幌の彫刻
北海道野外彫刻ガイド
〈工芸〉
日本の金工
蓮田修吾郎金属造型
日本現代工芸美術 第23回
現代日本の陶芸 第6・10巻
又、寄贈いただいた主なもの

いっあんない・団体展

◎61年度(終了分)

●現代書道五十人展・現代書壇代表名作展・千葉書壇秀抜展・千葉書壇新進展
1月20日～1月25日

●子ども造型展
1月27日～2月1日

●第4回千葉県医師会美術展
1月27日～2月1日

●千葉敬愛短大書道展
1月27日～2月1日

●群鷗書人展
2月3日～2月8日

●第39回千葉県小中高書初展
2月3日～2月8日

●親子絵画展
2月3日～2月8日

●千葉大学教育学部美術科卒業制作展
2月10日～2月15日

●第21回千葉大学学生書道展
2月10日～2月15日

●第10回唱和会展
2月17日～2月22日

●幕張北高校書道コース卒業制作展
2月17日～2月22日

●第12回千葉県民写真展
2月17日～3月1日

●秋耕会千葉支部展

●和洋女子大学卒業展
(雁鴻会書道展)

●昭和61年度第18回千葉市民美術展覧会
2月24日～3月1日

●第34回書星教育部展
3月3日～3月22日

◎62年度
●第13回武蔵野美術大学校友会千葉県支部展
3月24日～3月29日

●エテロクリット展
4月7日～4月12日

●第24回全日本総合書道大覧
4月7日～4月12日

●第7回千葉美術工芸展
4月14日～4月19日

●第13回観模展
4月21日～5月3日

●第13回歩会彫刻展
4月21日～4月26日

●第18回表美展
4月21日～5月3日

●第14回千葉新協展
4月28日～5月3日

●第27回白扇書道会展
4月28日～5月3日

●第27回白扇書道会展
5月5日～5月10日

'86 実技講座をふりかえって

昨年5月から始まった本年度の実技講座は、12月のてん刻研修講座をもって終了しました。今年度実施した講座は日本画・デッサン・版画・彫塑・陶芸・金工・七宝焼・書芸・てん刻の9種11期延べ47日間の入門講座、日本画・洋画・陶芸・書芸・てん刻の5種8期延べ32日間の研修講座です。

さらに今年から新しく開設された美術館友の会（葉美会）の洋画入門講座を3期延べ18日間にわたって実施しました。

どの講座も受講希望が多く、全体で610名の定員に960名近い

応募があり、抽選により、やむなく落選通知を出すという状況でした。

今年度は新設講座はありませんが、彫塑入門講座を従来の塑造（石こう取り）から、レリーフ・丸彫り等の木彫に変え、さらに金工入門講座では、昨年の基礎の彫金から鍛金に変更するなど内容的には若干の変化がありました。こうした新しい講座においてもそれぞれの工程を精力的にこなし、今後の展開が期待されます。

アンケートから

現状把握と今後の実技講座のありかたを考えるため、14期の講座でアンケートを実施しました。さまざまな視点から意見が寄せられ、次にその

課長、県教育庁企画室（千葉県第四次総合五ヶ年計画担当）、同庁文化課・社会教育課課長補佐等を経て、昭和五十九年以降美術館副館長。

昨年十二月三日、入院中の国立千葉病院で心不全のため死去された。享年五十一歳。葬儀・告別式は印旛郡栄町矢口の自宅で執り行われた。

糸賀茂夫副館長

東京教育大学卒業後、昭和三十三年県教育委員会職員、県立富津海洋資料館、県教育庁社会教育課、文部省青年の家事業課、習志野市社会教育



（金工入門講座から）

一部を紹介します。

（洋画）色彩や構図の基礎的なレクチャーの実施・裸婦やコスチュームなどを定期的に希望

（版画）リトグラフ・シルクスクリーン・木版・銅版画など多様な技法の修得

（彫塑）彫刻は思ったより体力を必要とし、初心者にも手軽にできる新素材の検討

（陶芸）身近にある草木から釉薬を作る、親子で参加できるカリキュラムの設定

（金工）一般では備品が手配できないので、施設・備品の十分な活用を。他では鍛金の講座がなく一層の充実を

（書芸）継続して受講できるシステムを（てん刻）家庭で充分できる工程もあるのでその成果を持ち寄って研究会的な内容を（テ

日誌抄

キストの充実（日本画）

一人の指導では講師への負担が大きすぎ、今回のように経験者といっしょに制作することとそれが解消できた

（七宝焼）日数が少なく作品完成という段階までは困難であった62年度にむけて

実技講座は開設された当初からこの11年間に、社会教育をとりまく環境や個々の意識の変化、さらにアンケートに見られるような受講者からの要望等により、試行錯誤がくり返されてきました。基本的には、美術についての理解と関心を深め、自ら作る喜びを味わえる県民の創作活動の広場としての役割があります。

来年度は、これまでの実績を考慮しながら、平面・立体のバランスを図り、受講者の自主的な創作活動の助長を図るよう開講日数の増設、自主制作カリキュラムの設定等を計画しています。

また従来初心者を対象とした入門講座は、美術館友の会とタイアップして実施し、特に希望の多い分野については講座数を増設するなど、これまでより幅広い利用が可能となります。どうぞ御期待ください。

9・7

美術館夏季大学（2）
（講師）東京大学教授 授戸田禎佑氏、埼玉

9・13

県立近代美術館館長本間正義氏
企画展「富取風堂展」（10月12日まで）

9・14

第二回美術を語る会
（講師）版画家深沢幸雄氏

9・26

第十回千葉県移動美術館（丸山町、10月14日まで）

10・5

第三回美術を語る会
（講師）日本画家五十嵐幹・斎藤惇氏

10・7

第二回美術館協議会
第十回千葉県移動美術館（浦安市、10月30日まで）

10・17

第四回美術を語る会
（講師）千葉大学教授 授太田洋三氏

11・23

糸賀茂夫副館長告別式（印旛郡栄町矢口の自宅）

12・6

第二回美術館研究員会議

2・6

第五回美術を語る会
（講師）陶芸家三橋英作氏

2・8